様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２１年　３月２６日現在

研究種目：　基盤研究（C）
研究期間：　２００６　～　２００９
課題番号：　１８５００４８９
研究課題名（和文）　総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保と活用

研究課題名（英文）　Collecting and Utilizing Volunteer in comprehensive community sports clubs.

研究代表者　新出　昌明（Shinde Masaaki）
東海大学・体育学部・准教授
７０２６６３６０

研究分野：　スポーツ経営学
科研費の分科・細目：　健康・スポーツ科学　・　スポーツ科学
キーワード：　ボランティア、地域スポーツ、クラブ、マネジメント

１．研究計画の概要
本研究計画は、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保に向けた工夫や現状と獲得されたボランティアの活用方法の実態や課題を明らかにすることによって、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保と活用に関するマネジメントのあり方について追究することを目的とするものである。

２．研究の進捗状況
研究計画の目的を達成するため、ホームページ上にクラブ名と住所等が記載されている全国の総合型地域スポーツクラブから524 クラブを抽出して調査を実施した。調査方法は質問紙郵送法を用い、2008 年２月１日～３月 31 日の期間に調査を行った。
「クラブの概要調査」は、クラブの置かれている環境やクラブの経営状況など、ボランティアが活動する環境を知るための調査であり、配布数は 524、回収数（回収率）は 196（37.4%）であった。「総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの調査」は、各クラブに４部の調査票を同封し、協力できる範囲で調査票の配布・回収をお願いした。配布数は 2096 部。回収数(回収率) 655(31.25%)であった。調査から導かれた結果の概要は、以下のとおりである。
（１）クラブの手伝いを始める理由は「このクラブを育てていきたい」という利他的な理由に高い平均値がみられ、利己的な理由には低い平均値がみられた。
（２）ボランティアの人たちはクラブのメンバーがよく動いていることや育っていることに「励み」を感じて今後も続けていこうという意欲が生まれてくるように考えられた。
（３）クラブから報酬をもらっている人は「お礼のお金」で約３割、「交通費」では１割にも満たない結果であり、約７割の人がボランティア活動としての認識をもっていた。
（４）総合型地域スポーツクラブをお手伝いしていることの総合的な満足度は、約７割の人たちにとって満足している状態にあることがわかった。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
当初、個人情報保護法等の制約により調査対象者であるボランティアの名簿等を手にすることができず、調査を実施することに困難が予想された。しかしそれは、インターネット等の活用によって克服することができ、調査を実施することができた。
現在までのところ、調査の集計が完了し、対象者返送用の調査報告書を作成して、対象者への送付が終わっており、実施すべき内容が順調に達成されていると捉えられる状況にある。

４．今後の研究の推進方策
今後、調査結果を詳細に分析して、学会発表・雑誌論文の投稿・報告書の作成等によって、研究成果を社会に公表することを行っていく予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔その他〕
（調査対象者送付用報告書）
「総合型地域スポーツクラブのボランティアに関する調査」結果報告